



## 2022年 第3回定例会 一般質問から 熱中症から工事現場を守れ

記録的な猛暑で熱中症が増加したことを受け、高温多湿な環境で行う**工事現場の熱中症対策**に関して議会で質問しました。現在は政府や自治体から事業者へ熱中症対策の重要性が通達されるのみで、実際の管理やケアは事業者任せられています。

自治体が発注する工事においては、災害時は工事期間を延長できますが、熱中症を理由に延長はできません。町田市の一部の事業者では、暑さ指数をもとに熱中症の危険性が高い時間帯を避けたり、期間をずらしたりしている例もあります。

事業者任せだけでなく、自治体として公共工事にも一定の規定を設けて、**工事期間の延長措置の検討**を議会で訴えました。市は、早朝や夜間などに時間帯にずらすことを認めるなど、柔軟な対応をしていくと答弁しました。今後も都や国にも訴え、熱中症から命を守る活動に取り組みます。



夜間に工事をずらしている事業者

## 9月議会補正予算 **高校生等医療費助成事業** 2023年4月から

東京都は高校生等を対象とした医療費助成制度を2023年4月より実施します。町田市も都の補助金を活用し、「町田市高校生等医療費助成事業」を実施します。市内に住む高校生等(1年から3年生相当の年齢に当たる児童)に対して、医療費の自己負担分を助成します(通院1回自己負担、児童手当の所得制限に準拠した所得要件があります)。

9月議会では、システム改修や職員人件費を確保。その他、市内の中小企業、交通事業者、介護・障がい福祉サービス事業所、保育園・幼稚園等の物価高対策の支援事業予算を確保しました。

### 各地へ行政視察

長久手市



長久手市では外出しづらい方にスーパーで介護予防教室を行う

加古川市



がん患者に医療用ウィッグや乳房補整具の費用の一部を助成

豊橋市



ゼロカーボンシティ目指す豊橋市の基本条例の取り組みを視察

清須市



豪雨で冠水した清須市の防災リーダー養成講座等について視察

一宮市



独自施策を行う一宮市で重度障がい者受入れ補助について視察

瑞穂町



リチウムイオン電池や小型家電のリサイクル工場の現場を視察

# 物価高で生活支援物資も高騰 重度障がい者の補助の見直しを!

重度障がい者の日常生活支援用具16品は、国が2分の1、都が4分の1、本人が4分の1を負担する仕組みになっています。この中の一つに「紙おむつ」がありますが、石油から作られるため、物価高騰の影響を受けて価格が上昇。利用者は費用を抑えるため、値段の高い外パッドの使用回数を抑え、価格の安い尿漏れパッドで代用するという生活を強いられているケースもあります。

こうした方々からの声を受け、議会で日常生活支援用具に対する補助金の見直しを訴えました。市は見直しをしていないことを認め、調査を行うこととなりました。今後も現場の声に耳を傾け、障がい者の生活の質の向上のために取り組んでいきます。



## プラスチックゴミから町田市を守れ

プラスチックゴミは大きな社会課題となっています。ゴミの削減に欠かせないのがリサイクル、再利用です。特にペットボトルのリサイクルで日本は世界トップレベルにありますが、「異物混入」が町田市でも増加傾向にあります。異物の多くは一般ごみで、内容物に機械的損傷を与えると発熱・発火する危険性のある「リチウムイオン電池」が混入していたケースもありました。

ペットボトルの回収過程での異物混入に対する問題意識の強化を求めるとともに、市民への意識啓発を行うよう議会で提案。また、コンビニなど大型店舗では、店舗自体が回収・処理・再利用という仕組みもあることから、民間事業者との連携も重要であると強調しました。市はいずれも検討を進めていくと約束しました。



## 市長に来年度の予算・政策要望

新型コロナウイルス感染症の長期化と物価高騰に伴う継続的な支援、防災・減災対策、行政サービスのデジタル化、子育てトータルケアの拡充と伴走型の支援、健康寿命延伸に繋がる支援など、計367項目に及びました。

2027年国際園芸博覧会の会場となる旧上瀬谷通信施設(横浜市旭区・瀬谷区)を視察。米軍から返還された約242haの広大な土地で、約100haが博覧会区域となる予定です。博覧会や今後の基盤整備の計画について説明を受けました。

## 国際園芸博覧会



山下てつや YAMASHITA Tetsuya

市議会公明党幹事長  
公明党町田総支部 都市農業対策部長

昭和40年、東京都生まれ。青山学院大学経営学部を卒業後、新東亜交易株式会社に勤務。平成18年、町田市議会初当選。妻と2男1女の5人家族。モットーは「現場第一・対話第一」。下小山田在住。

